

# 演 習 資 料

\*講師の指示に従って該当ページをご覧ください。



# 演習 1

## 事例情報その 1

池田さんという住民が地域包括支援センターに訪ねてきて、以下を話し始めました。

- ① 「気になる高齢者がいたらお知らせください」って言われたから来た。
- ② 前はよく行き来していたお向かいの鈴木さん。
- ③ 柵越しに庭先で洗濯物を干していたのが見えたので声をかけると、私のことがわからなかったようでぼんやりしていた。
- ④ しばらくしたら、家の中から声をかけられたようで、びっくりした顔になって家に入っていった。
- ⑤ 呼び鈴を鳴らしてみたが、壊れているのか鳴らなくなっていた。
- ⑥ しかも、家の外から鍵がかけられるようになっていて、びっくりした。

### <ワーク 1-1 通報受付のワーク>

これから、池田さんからの聴き取りを行います。

**ワークシート 1** 「通報受付（情報提供者からの聴き取り）シート」（p. 1）を使って、聴き取りを行いましょう。

| 通報受付（情報提供者からの聴き取り）シート                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>聴き取り時の姿勢を確認</b><br/>します。</p> <p>クローズドクエスチョンで確認する</p> <p>②確認する項目</p> <p>◆高齢者について</p> <p><input type="checkbox"/>氏名 <input type="checkbox"/>年齢 <input type="checkbox"/>性別 <input type="checkbox"/>どこにいますか <input type="checkbox"/>連絡先</p> <p><input type="checkbox"/>家族等の状況（同居／別居）</p> <p><input type="checkbox"/>心身の状況</p> <p><input type="checkbox"/>疾患・障害 <input type="checkbox"/>要介護度等、介護の必要な状況</p> <p><input type="checkbox"/>医療を緊急で必要とするような状況がある（と思う）か</p> <p>◆他の家族、関係者について</p> <p><input type="checkbox"/>別の家族 <input type="checkbox"/>関係者・機関（連絡した人も含む）</p> <p><input type="checkbox"/>世帯に影響のある人・機関とその関係性</p> <p><input type="checkbox"/>どうやったら連絡がとれるか</p> <p>◆今後の事実確認調査の訪問、面接のための情報</p> <p><input type="checkbox"/>高齢者に面接できる場所、時間等、外出の有無</p> <p><input type="checkbox"/>要介護者に面接できる場所、時間等、外出の有無</p> <p>◆通報者（情報提供者）から聞き取ること</p> <p><input type="checkbox"/>氏名（匿名でも可） <input type="checkbox"/>関係性</p> <p><input type="checkbox"/>直接聞き取ったのか、また聞きか</p> <p><input type="checkbox"/>今回の連絡の理由</p> <p><input type="checkbox"/>他に、この事実を知っている人物・関係機関の有無</p> | <p>① 最初に、情報提供者に伝えること<br/>情報提供者に伝えたら☑をします。</p> <p>② メモ欄<br/>情報提供者の話を自由にメモしつつ、②で確認した項目について追加情報等を書き取っていきます。</p> <p>③最後に必ず確認すること・伝えること<br/>情報提供者に伝えたら☑をします。</p> |

<池田さんの話の追加情報>

- ⑦ フルネームは鈴木タマミさん。自分と同じ年なので、今は 78 歳のはず。
- ⑧ ご主人の退職の頃、20 年近く前に向かいに引っ越してきて、年代も一緒だったので、仲良くなった。息子さんはもう家を出ていたから、息子さんがここに住んでいたことはなく、私も盆暮れには主人の実家に帰ってしまうので、息子さんと顔を合わせたことは、あまりない。
- ⑨ 息子さんの身長はよくわからない。あごのところに大きい黒子があったと思う。
- ⑩ 1 年前にご主人が亡くなって、落ち込んでいる時期があって、『お鍋こがしちゃった』『ぼんやりしてたら道にまよっちゃった』と物忘れも出ていたようだった。
- ⑪ 自分も主人が亡くなったあとに同じようになったので、体操教室とかに誘っていたが、『一人息子が同居してくれることになった』と嬉しそうに言っていた。『親孝行な子なの』と言っていたので、もともとの仲も悪くない親子だったんだと思っていた。
- ⑫ 半年くらい前から息子さんが一緒に住むようになると、『息子が家で仕事してるから、うるさくすると嫌がる』と、家に上げてくれなくなったし、うちにも来なくなった。
- ⑬ この間おすそ分けをもって、鈴木さんの家に久しぶりに行ってみた。
- ⑭ 声をかけた時、顔の左半分が青黒い痣になっていて、びっくりした。こんなことは初めてで。
- ⑮ 顔に痣が出来ている鈴木さんを見かけたのは、5 日前のこと。
- ⑯ 以前は、右の膝が痛いって言っていて、ふらふらすることがあり、杖をついている時もあった。
- ⑰ 鈴木さんはいつも、晴れた日は午前 9 時半ごろに洗濯物を干していることが多い。洗濯物を干しているところが、庭の柵越しに見える家のつくり。

① **ワークシート2** 「事実情報の整理シート」(p. 2)の右側を記入してみましょう。

② **ワークシート3** 「高齢者虐待対応における緊急保護・緊急対応が必要な状況例」(p.5) を記入してみましょう。

②左側の欄に○  
等を記入する

① 右側の状況の欄に  
☑がついたら、左  
側へ

## ＜ワーク2 事実確認前の協議のワーク＞

**ワークシート4** 「事実確認（訪問・面接調査）前の協議シート」（p.7）を記入してみましょう。

| 事実確認（訪問・面接調査）前の協議シート                                    |           | ワークシート4                                                       |
|---------------------------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------|
| 通報受付内容（虐待と思われる事象の概要）                                    | 本人        | 養親や他の親族                                                       |
| ワークシート2「事実情報の整理シート」の記入例をもとに、「考えられる可能性」について記入済みです。       | 面接で確認すること | <p>＜面接で確認すること＞</p> <p>「考えられる可能性」をもとに、面接で確認したいことを箇条書きにします。</p> |
| で案に閉じ込められている可能性                                         |           | <p>※安全・安全確認は必須</p> <p>生じうる危険/危険</p>                           |
| ＜包括内・庁内情報の収集＞                                           |           | <p>「考えられる可能性」や「面接で確認すること」をもとに、訪問計画を立てます。</p>                  |
| <p>「考えられる可能性」をもとに、どのような包括内・庁内情報を、誰がどうやって収集するかを考えます。</p> |           |                                                               |
| ＜関係者・関係機関からの情報収集＞                                       | 訪問先       |                                                               |
| 「考えられる可能性」をもとに、どのような機関から、どのような情報を、だれが、どうやって収集するかを考えます。  | 訪問方       |                                                               |
|                                                         | 訪問す       |                                                               |
|                                                         | 持って       |                                                               |
|                                                         | 口血圧       |                                                               |
|                                                         | 口その他      |                                                               |

（公社）日本社会福祉士会「B案 情報収集依頼項目」を参考に（公社）あい権利擁護支援ネットにて作成したものを高齢者権利擁護支援センターで編集（令和4年4月版）

まず、左側を記入します。

講義、解説の後、  
右側を記入します。

## 事例情報その2

地域包括支援センター内の協議、市と地域包括支援センターとの協議の中で、以下の判断がありました。

- ① 身体的虐待の可能性、心理的虐待の可能性、放棄放任の虐待の可能性がある。
- ② 顔面の痣(頭部外傷)があると思われることから、緊急性が高い状況のおそれ(A-1、D-3)がある。

庁内情報の確認や関係者・関係機関からの聴き取りを行った結果、以下が確認されました。

- ③ 地域包括支援センターにも市にも相談履歴はなく、介護申請もされていない。
- ④ 住民基本台帳の情報では、タマミさんは一人世帯、78歳。
- ⑤ 介護保険料、医療保険料の未納はなく、利用制限なし。3か月前までの受診歴なし。
- ⑥ 民生委員、交番にも情報なし。

鈴木タマミさんが洗濯をする時間が決まっているということから、9時半頃に、地域包括支援センター職員2名でタマミさん宅を訪問しました。

家の門扉にはチェーンが巻かれて、開けられないようになっています。通報者の話したとおり、玄関扉の上の方に鍵が取り付けられ、外側から鍵がかけられるようになっていました(今は施錠なし)。

タマミさん(と思われる女性)が洗濯物を干しているのが見えたので、庭先から声をかける形でアプローチをこころみました。

「役所から委託を受けて調査をしています。ご挨拶をさせてください」と話しかけると、タマミさんは、怪訝そうな顔をして少しよろめきながら、こちら側に寄って来てくれました。タマミさんであることを確認し、自己紹介をしながら観察すると、顔の左半分が黄色くなっており、左脛にもこぶし大の黄色い痣が見えました。「お顔のところ、痛そうですね。どうされました？」と尋ねると、困った顔になり「大丈夫。転んだだけです。なんともありません」と言います。「看護師がお体の状態を確認できるんですよ。首から上の傷は心配なこともありますから、よくみせていただくために、ご自宅にあらせていただけないか？血圧とかも測れますよ」というと、タマミさんは「いいから。大ごとにしなないでください」と言います。

中年男性(息子と思われる人物)が家の中から庭に出てきました。こちらを見ると大声で、「今度は何を売りつけるつもりだ！帰れ！警察を呼ぶぞ！」と言います。タマミさんは男性のことを怖がっているようで、「今、帰ってもらってるところだから」と男性に言いました。

### <ワーク3 事実確認のワーク(訪問調査の途中で考えるワーク)>

#### <3-1>

**ワークシート5** 「事実情報の整理シート」(p.9)、**ワークシート6** 「高齢者虐待対応における緊急保護・緊急対応が必要な状況例」(p.11)を記入してみましょう。

#### <3-2>

- ① ワークシート5の記入内容や、記入済みのワークシート4も参考にしながら、これからどのように事実確認を進めるか考えて、**ワークシート7**に(p.13)記入しましょう。

## 演習 2

### 事例情報その3

出てきた男性は、タマミさんの一人息子のトシヒロさん（58 歳）でした。

トシヒロさんから直接、役所の担当者にも問い合わせをしてもらい、地域包括支援センターに実態把握調査の委託があることを確認してもらったと、ようやく家に入れてもらうことができました。

トシヒロさんには玄関口で、タマミさんには家の中で聴き取りや状態確認を行いました。

#### トシヒロさんの話・様子

##### <トシヒロさん自身のこと>

- ① 自分の家は、隣県にあり、妻と娘家族と一緒に住んでいた。自分に兄弟はいない。
- ② 父が亡くなったあと、母が心配になり、家族をおいて一人、この家で同居するようになった。
- ③ 娘が出産したばかりなので、妻と一緒に連れてこれなかった。
- ④ 友人と一緒に会社をやっている。パソコンがあれば在宅でも仕事ができるので、できるだけ外出せず、家で仕事をできるようにしてきた。

##### <消費者被害のこと>

- ⑤ 母の物忘れはだんだんとひどくなり、自分が買い出しに出かけたり、会社に出かけたりしている時に、大量に布団や健康食品を買わされたり現金をどこかにゆうパックで送ってしまったり、次々と消費者被害にあった。
- ⑥ 消費生活センターにも相談したが、悪質事業者が行方をくらましているので取り戻すのは難しいとのことだった。
- ⑦ カモリストにのっていると思われるので、これからも次々といろいろな事業者が訪問販売に来るかもしれないと言われ、しっかり管理するよう、消費生活センターの人に助言された。
- ⑧ なので、玄関の呼び鈴が鳴らないようにしたり、自分の外出の時には電話線を抜いたり、外から鍵をかけて母が事業者と接触できないようにしたりして、工夫してきた。

##### <病院や介護保険サービスの利用のこと>

- ⑨ 一緒に会社をやっている友人が、認知症の父親を看取った。「病院で認知症と診断され、処方された薬を飲んだら暴れるようになって大変だった。」「介護保険サービスも利用したけれど、やたらに呼び出されたり家に人が出入りして、かえって煩わしかった」と、友人は言っていた。「足腰がしっかりして動けている間は、病院も介護保険（サービス）もあてにしないほうがいい」と言われたので、医者にも診せず、介護サービスも利用せず、今までやってきた。

##### <二人で生活していることについて>

- ⑩ こうやってうちに来て相談にのってくれるところがあるんだったら、早く相談すればよかった。今は、誰が来ても悪質事業者に見えてしまって、息が詰まっていた。
- ⑪ 母は、何度も同じことを訊く。こちらもしライラしてつい怒鳴ってしまう。母がビクビクするようになり、ビクビクされると余計、こっちのライラが増す。



### タマミさんの話・様子

- ⑫ 顔の傷のことについて尋ねると、玄関の上がり框のところに行って、「ここの段を昇る時につまづいたんですよ。こんな風にぶつけて」と、顔と左足の脛をぶつけたという説明があり、特に不自然な点はなし。
- ⑬ 看護職員が、タマミさんの上半身をチェックしたところ、顔と左足の脛の痣以外の外傷は見られず。バイタルも異常はなく、脱水症状の兆候も見られない。
- ⑭ ADLのチェックをしたところ、立ち上がりや歩行にふらつきあり。外出には介助が必要な状況で、足腰が弱ってきている様子。時々、手指がしびれることがある、とのこと。
- ⑮ 尿臭等の臭いなし。トイレも自分で行っているとのこと。
- ⑯ トシヒロさんが地域包括支援センター職員に「家に上がってよい」と言ってからは、少しホッとしたようで、こちらの質問にも答えてくれた。実態把握調査の項目に織り交ぜて、「困っていること」「嫌なこと」を聞くと、「なんだかいろいろ忘れちゃうことが多くて」「でも、息子がいてくれるから大丈夫」との返答。「楽しみにしていること」は、「テレビを見ること」で、「今は朝のドラマや情報番組が好き」。話すことが好きなようで笑顔が見られる。
- ⑰ 誕生日を答えることはできず、逆唱もできないため、認知機能の低下がみられる。

### 家の中の様子

- ⑱ 台所には、「火を消したか確かめる」という女性の文字の貼り紙があり、焦げた跡のある鍋があった。
- ⑲ 電話のそばにはトシヒロさんのものと思われる字で「電話を勝手にかけない」「電話が鳴っても出ない」という貼り紙が貼ってあり、電話機も留守番電話機能を作動させた状態。他にも「水を出しっぱなしにしない」「段差注意」という紙も貼ってある。
- ⑳ 宅配弁当の空き容器が洗って重ねられており、特にすごく散らかっている様子もなく、逆に清潔さにこだわりがある様子も見受けられない。

### 明日の約束

「頭部の傷は、あとから大変になることがあるので、念のためにお医者さんに診てもらいましょう」と、タマミさんに医療機関を受診することを提案、タマミさんは「息子に聞いてみないとわからない」という返事でした。トシヒロさんは「連れて行ってくれるならいいですよ。でも認知症の薬は飲ませないですよ」とのこと。

翌日、地域包括支援センター職員がタマミさんの医療機関の受診同行をするために改めて訪問すること、その時に玄関の上がり框で再びつまづくことがないよう、段差を解消する踏み台になるようなものを持ってくることを約束して、訪問を終えました。タマミさんからは「また来てちょうだいね」と送りだされました。

### <ワーク4 コアメンバー会議のワーク>

ワークシート8 「第1回 コアメンバー会議録」(p. 14)の□部分を記入してみましょう。

## 事例情報その4

第1回コアメンバー会議の後、以下の対応を行いました。

### タマミさんの受診支援とさらなる聴き取り

- ① 頭部外傷についてCTをとってもらう。(後日、軽度の多発性脳梗塞があることがわかり、脳血管性認知症(軽度)の診断が出る)
- ② 医療機関で長谷川式スケールを実施してもらったところ、23点/30点
- ③ トシヒロさんがいる時といない時とで、様子が変わるということではなく、暴力を受けているという訴えも保護の訴えもなく、地域包括支援センター職員や医療機関の職員との会話を楽しんでいる。
- ④ 家族構成について尋ねると、孫娘がいることは覚えているが、孫が結婚してひ孫を出産した話は出てこない。知らされていないのか、覚えていないのか不明。
- ⑤ 怒鳴られることについて確認すると「(息子は)仕事で忙しいから」と回答。

### トシヒロさんからのさらなる聴き取り

- ⑥ タマミさんには年金が、遺族年金を合わせて1カ月16万入っている。
- ⑦ この家、土地は父の名義でローンは完済。今は、自分と母で半分ずつ所有。
- ⑧ 父親が残してくれた遺産が2000万あったが、母が800万を悪質事業者に送ってしまった。
- ⑨ トシヒロさんから、食費として月に3万入れている(つもりだが、どんぶり勘定)。今のところ二人でやっていけている。
- ⑩ 介護や医療に費用をかけるとしたら、月に10万~12万くらいまではタマミさんの年金から出せると思う。
- ⑪ 自分のやっている会社はなんとかやっていけていて、役員報酬ももらえている。母の年金に手を付ける気はないが、自分はローンを抱えているので母の介護費用等の負担は厳しい。

### 消費生活センターからの情報収集

- ⑫ 昨年11月ごろに長男から相談があった。布団や健康食品については事業者に電話して引き取ってもらえたが、劇場型勧誘で郵送した800万は取り戻すことができなかった。

### その後の支援

トシヒロさんに、「薬を飲んで、食生活を含めた生活習慣を整えることが、タマミさんの再梗塞の予防に重要である」と説明したところ、タマミさんもトシヒロさんも納得したため、医療機関の定期受診や介護保険サービスの導入につなげることができました。介護認定は、要介護2。

ケアマネジャー(CM)に今までの状況を説明し、住宅改修(段差解消)が行われ、デイサービス(DS)が週3回、デイサービスの送り出しにホームヘルパー(HH)が週3回入るようになりました。ショートステイ(SS)利用も提案しましたが、「泊まると、かえって母のペースが崩れる気がするから、今は必要ない」と、トシヒロさんが断りました。デイサービスの利用によって、トシヒロさんは、日帰りで自宅に帰ったり、仕事に行ったりできるようになりました。

モニタリング訪問を繰り返し、外鍵による閉じ込めが無くなったことが確認できました。また、トシヒロさんから「母を怒鳴る回数が減った」という発言もあり、「そろそろ虐待対応を終結できるかもしれない」と地域包括支援センター職員同士で話していました。

### 新たな虐待の発生

最初の通報受付から 3 か月が経った頃、デイサービスの相談員から「タマミさんが来ているのだが、『昨日、息子に蹴られた』と言っている。顔と背中に痣がある」という連絡が入りました。

### 事実確認、緊急対応

地域包括支援センター職員がデイサービスに行ってタマミさんから話を聞くと、「昨日の晩、蹴られた」「蹴られたのは初めて」（暴力は初めて）と言い、背中に蹴られたときに出来た痣、顔に倒れてぶつけた時の痣ができていて、どちらも赤黒く腫れています。「私が迷惑をかけているから、あの子は困っている。昨日は人が違ったようだった。もう、帰りたくない」と言います。

トシヒロさんに連絡し、タマミさんの医療機関の受診を提案、痣についての事情を聞きたいことを伝え、「病院に連れて行った方がいいかもしれないと思っていた」「息子として、とんでもないことをしてしまった。母に会わせる顔がない。今晚一晩預かってほしい」との返事でした。

タマミさんは医療機関受診後、緊急ショートステイを 10 日間利用することになりました。

### トシヒロさんの話

- ① この間、日帰りで自宅に帰った。孫は全く自分に懐いてくれず、会話にも入れない。
- ② そんな時に実家に戻ったら、デイサービスから母が楽しそうに帰ってきて、私をみて申し訳なさそうな顔をしたので、すごくイライラした。
- ③ しかも、その夜に畳んだ洗濯物をしまっていると、失禁した後の汚れた下着が丸まって奥から出てきた。失禁までしているとは知らなかったし、隠すことも、許せなかった。
- ④ 怒りを抑えられず、座っている母の背中を蹴ったら、机に倒れて顔もぶつけていた。
- ⑤ 母に申し訳なく、自分でも疲れていると思うので、とにかく少し休みたい。
- ⑥ 母を施設に預けるという選択肢もあるんだと思うが、父の死のときに何もできなかった後悔が大きく、母にはせめて、できることはしてあげたい思いもある。今は、施設入所までの決心はできない。

### ショートステイ利用中のタマミさんの様子

- ⑦ デイサービスは楽しかったけど、ここは何もない。
- ⑧ トイレに間に合わなかったのは、この間が初めて。息子に言うのは恥ずかしくて、デイサービスに行った時に自分で洗おうと思って、隠していた。

コアメンバー会議を開いて、暴力行為についての身体的虐待があるという判断を行い、ショートステイ利用後の支援について話し合いをするために、個別ケース会議を開催することになりました。ケアマネジャー、デイサービスの相談員、ショートステイサービスの相談員、ホームヘルパーとヘルパー事業所のサービス提供責任者、地域包括支援センター職員と市担当職員とで、このケースの「見立て」を行い、「支援計画」について話し合うことにしました。

<ワーク5 個別ケース会議による見立て>

**ワークシート9** 「事例分析シート」(p.16)の左側を確認し(上記以外の、事業者からの情報が足されています)、右側を記入しましょう。

| 事例分析シート                                                                                              |                                                    | ワークシート9                                                |                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 現在の虐待の判断状況                                                                                           | 緊急性の判断状況                                           | 高齢者本人の因子                                               | 養護者・家族の因子                                              |
| <p>「現在の虐待の判断状況」</p> <p>「緊急性の判断状況」</p> <p>「ジェノグラム・エコマップでの事例状況のまとめ」</p> <p>「時系列での事例状況のまとめ」は記入済みです。</p> | <p>「地域・支援者の強み」の部分だけ、記入してあります。それ以外の欄を記入してみましょう。</p> | <p>① 認知症</p> <p>② 受け入れ</p> <p>③ 受け入れ</p> <p>④ 今までの</p> | <p>① 認知症</p> <p>② 受け入れ</p> <p>③ 受け入れ</p> <p>④ 今までの</p> |

## <ワーク6 個別ケース会議による支援計画立案>

**ワークシート10** 「課題分析&支援課題整理シート」(p.18)の下半分を記入してみましょう。

ちょうど、3週間後にサービス担当者会議が予定されているため、そこにあわせて次のケース会議を実施することになっています。これから3週間後までの支援計画を立てます。

課題分析&支援課題整理シート
ワークシート10

( 背景・要因/強み )
( 虐待の事実 )
( 結 果 )

上半分は、すでに記入してあります。

支援課題  
を縦に記  
入します

↓

| 支援内容            | 支援を実施した<br>場面に予測される<br>課題 | 左隣への対応策 | 優先順 | 役割分担<br>担当者 | 当面の目標           |
|-----------------|---------------------------|---------|-----|-------------|-----------------|
| 家族がどの程度参画しているのか | (記入なし)                    | (記入なし)  |     | 家族          | 家族がどの程度参画しているのか |

課題ごとに、優先順位を除いて横に記入します。

—————→

記入例として、1つの課題だけ、記入済みです。

(公財)東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター作成 H29.5月版

個別ケース会議では、以下の課題が発生していることが確認され、支援計画を立てました。

- ① 失禁の発生に、タマミさんもトシヒロさんもうまく対応できていない状況
- ② ショートステイ利用中の「することがない状態」への、タマミさんの不満
- ③ トシヒロさんの孤立した介護
- ④ 父親（タマミさんの夫）をしっかりと看取れなかったというトシヒロさんの思い
- ⑤ トシヒロさんの施設サービス利用への抵抗感

#### 会議での報告 その1

2度目のケース会議の際、以下が確認されました。

- ⑥ タマミさんがショートステイを定期的にご利用するようにケアプランが変更されたこと
- ⑦ 前回のショートステイ利用中にも、タマミさんが職員を手伝ったり、1階のデイサービスの手伝いに行ったりできるようになり、ショートステイ利用についてのタマミさんの不満も消失したこと
- ⑧ 失禁がその後あるかどうかの確認を続けたが、特に発生なし。
- ⑨ グループホームや有料老人ホームの利用については、「考えてみる。見学してみる」というタマミさん、トシヒロさんの返答。
- ⑩ トシヒロさんと、父親の死について面接で話題にしようとしたが、「今は話したくない」という反応だった。

#### 会議での報告 その2

3度目のケース会議のモニタリング状況報告では、以下の報告がありました。

- ⑪ トシヒロさんの自宅に一時帰宅してこちらに戻ってきた後（タマミさんのショートステイ終了時）、トシヒロさんのイライラ感が増して本人への対応が荒くなること
- ⑫ ショートステイから帰って2～3日が、イライラ感が増しているハイリスクな状況になってしまうことが継続していること
- ⑬ トシヒロさんが「自分の家に帰っても、介護のつらさやしんどさは『（孫の）子育ても一緒』と言われて理解されない」と言っていること

#### <ワーク7 支援の評価・見直しのワーク>

会議での報告 その1・その2をもとに、初回の会議で支援計画立案をした際の5つの課題（①～⑤）が解消されているかどうか、話し合ってみましょう。

また、解消されていない課題についてどのような対応があるか、検討してみましょう。

### その後の支援

支援計画を見直し、トシヒロさんの家に帰るだけでは、トシヒロさんの孤立感や父の死への不安全感は解消されないと判断し、男性介護者教室へ誘うことにしました。男性介護者教室では、地域包括支援センター職員がファシリテーターとなり「言いつばなし、質問や反論なし、持ち出しなし、名乗らなくてもいい」という形で男性介護者が語り合える会を実施していて、この集まりに誘うことになりました。

トシヒロさんは、この集まりをすごく気に入って、「あそこに行くと、元気がもらえる」と、2週間に1回通うようになりました。この時に、父親の死について後悔していることを話すことができ、トシヒロさんの中で、少し気持ちの整理ができたようでした。

また、デイサービスやショートステイで楽しそうに職員の手伝いをして過ごしているタマミさんを見てからは、「もう少し認知症が進むことがあったら、グループホームの利用も検討する」とトシヒロさんが言うようになりました。

また、イライラしてきた時にどう対応するかという安全プランについてトシヒロさんと話し合いを行い、「イライラしてきたら家の外に出て、地域包括支援センターやケアマネジャーに連絡する」というプランを立てました。

### 終結

タマミさんの表情もトシヒロさんの表情も、とても和らぐようになり、トシヒロさんがタマミさんを怒鳴りつけることもなくなりました。トシヒロさんがイライラしたときには、ケアマネジャーや地域包括支援センターにSOSを出すようになりました。

タマミさんの認知症の進行も特に確認されず、暴力の再発生もなかったことから、通報受付から7か月後、コアメンバー会議にて、虐待対応の終結を決定しました。

なお、今後、失禁やタマミさんの機能低下等で新たな困りごとや心配事が出てきた場合は、地域包括支援センターへ知らせるよう、タマミさんやトシヒロさん、ケアマネジャー等支援者に伝えました。